

参加者：

<学校運営協議会>

川島委員、原委員、松田委員、徳川委員、生駒委員、宮丸委員、山下委員、多貝委員、前田委員、
早川委員

<校内委員>

平山校長、原口教頭、田島教諭、徳永教諭、末松教諭、下田教諭、森山教諭、池本教諭

(1) 学校長挨拶

地域連携の体制をどう作っていくかというところは1つ課題として今日議題にもあがってくると思う。我々もまだはっきりとしたものが見えてるわけではないが、それを模索しながら進めているところです。どうぞ協力をよろしくお願いいたします。

(2) 出席者紹介(委員任命状交付)

名前と簡単な自己紹介

(3) 本年度の探究活動について

4～6月の探究活動について紹介(キッカケセッション、課題分析講座、等)

(田島教諭)

資料1、2ページ 虹の松原クリーン作戦(ボランティア部)

九州大学とのコラボ 海の環境について学ぶ環境学習(理科部)

統計に関する講演会(立教大学 山口先生より 探究に生かせる統計について)

3ページ 1年生のキッカケセッション

年間スケジュール：いろいろな分野の話聞いて自分の興味関心を探してテーマ設定につなげる

- 4 ページ 唐津市役所等、さまざまのところから話に来ていただいた。
- 5 ページ 16分野の学校の先生に来てもらって、その学問が世の中でどう役に立っているかについて話していただいた。
- 6 ページ 2年生は専門家よりサポートをいただき、課題分析として各グループに入って支援をいただいた。

いろいろな話を聞くことで、生徒たちは考えが深まった様子。1年生はこの後テーマを絞っていく予定。

(4) 議題

①部会業務の確認

徳永：学校運営協議会は企画運営部会と地域共同部会に分かれて活動をしているが、実際の動き方がわからないという声もあったので、ここで再確認できれば。

Aさん：資料の規約を読み上げ（前回資料3ページ 下の表）

企画運営部会は主に学校運営協議会の方針、評価を行う。また、総合的な探究の時間の支援を行う。地域協働部会は主に生徒の探究活動の伴走、グループ活動、フィールドワークでの支援を行う。また、地域連携において、地域との橋渡し役も行う。

学校運営協議会は、学校評価に意見を出すのがもともとの大きな役割。企画運営部会が学校評価をする。地域協働部会は評価をしないということですか？

徳永：審議をするのが企画運営部会。最終的には全体で評価をするとは思いますが。

Aさん：探究については皆さんで意見を出していますが、実際にサポートに携わる人と、運営側として携わっている人といいますが、分け方等で何か疑問や意見があれば。

徳永：11月の会議には部会に分かれて話をする時間がある。探究や学校運営の両方に関わっていただく。肩書上はこのように分けてさせていただきつつ、話された内容や問題は全体で共有する形で。探究活動でお名前を書いている方々もいらっしゃるの、地域協働部会の方に入っていると思いますが、このような形で。

Aさん：この区分けは必要かどうか、というところでご意見いただけますか？探究活動に関わっているのはみなさんなので、学校評価についてもみなさんで行うことを考えると、部会を考える意味はあるのかどうか？

Bさん：学校運営協議会は大事な組織で、探究活動へのサポート、地域の方々からのサポート等、これ

から広がっていく可能性がある。部会の区分けについても、それぞれの部会がどう展開していくかについても整理していく時期だと思う。

Cさん：子どもたちは探究について、これというイメージがあるのか？困ったことについて解決してください、のように、骨組みを提供して、枝葉を生徒が担当すれば、成果が上げやすいのでは？
例. Qさばの販売不振を漁協と協力して商品開発をするなど。地域や企業を巻き込んだほうが資金や支援が得られて、実のある活動ができるのでは？

Aさん：Cさんは企画運営部会だが、みんなでサポートをして、みんなで評価をすると思うので、個人的には部会に分かれて活動をするという感じではない。

Dさん：グループに入ってサポートをしました。柑橘類を使って化粧品にまでつなげたい。なんとなくのあいまいさがある中での活動であった。2学年6クラスに分かれていたが、ほとんどのグループがほぼ目的が明確でないのが現状。エネルギー関係のテーマを探究しようとしたら、大学で扱う内容だから、と言われてテーマを変えた。子供たちが探究の目的や意味をわかっていないのが現状。そもそも探究が何なのかを大人も学ぶべき。それぞれの探究の視点、大人の視点を分けて、協議会として組み立てていけるとうまくいくのでは。子供と同行する中でこれからだと思うが、大学の研究と探究は別物だと考える。

Aさん：探究サポーターと地域協働部会の役割分担をするべき。グループの中でも子供の意見を否定しないなどのルールを決めるべき。フィードバックをする際にどこで話をするのか、企画運営部会としてもそれを聞かないと協議はできないので、結局は1つにまとめるべきなのは。

Eさん：2つのやるべきことがあるから2つに分けるのは分かるが、1つなら1つにまとめていたほうが良いのでは。

Aさん：学校評価について、評価をするのは何人です、というしぼりがあれば仕方ないけど、人数制限がなければ分けなくてよいのでは？

徳永：学校運営協議会の形がまだできていないが、学校全体の運営全体を行う旧学校評議員会としての側面と、探究活動のみを話す場ではない、という認識があれば、2つのことを話をする場と考えていただければ、ということで、部会として2つ設定をされている。部会を設定することは、学校運営協議会の2つの機能を示している。それを忘れなければ分けなくてもよいのでは。

Bさん：それぞれの視点の違いはあるので、2つに分ける意義はある。

Fさん：部会に変わった当初は、部会を分けたことによる不具合もあったが、学校を思う気持ちは変わらないので、役割分担くらい感覚であり、探究の方にも携われれば、と思っている。学校全体を地域の視点から、ということであれば、分ける必要もないのでは。

Aさん：探究がまったく関係なく、企画運営部会だけで話をする機会があれば、部会を分ける必要も出

てくるし、そうでなければ分ける必要もなくなる。

②探究ルームの活用について

徳永：探究ルームには予算がついて、備品も買えるが、機能がまとめられると、校長や教育委員会に伝えることができる。部屋の活用まで進んでいる学校は県内では少ないが、どういう部屋にしていくか、という意見をいただければ。なるべく完成形に近づくように努力していきたい。常駐する人がいるのが一番良いと思う。常駐する人材については、結論は出ないかもしれないが、理想形を話し合えれば。

田島：探究ルームについては、探究支援部が構想やデザインを考える流れになると思うが、その前に学校運営協議会の委員会の皆さんの意見を聞いて、資料に示している。こういう方向で考えているが、何かご意見いただければ。

Aさん：現在は？

田島：外から自由に入出りできるような。できるだけ気軽に出入りができて、生徒が外部の方と話せるようなイメージでどうかな、と。リラックスできる空間。応接セットやホワイトボードなどを設置してはどうかと考えています。

Aさん：探究ルームについて、実用的な意見など、どうでしょうか？

Cさん：携わってはいないですが、生徒たちは授業中に行くんですよね？時間帯がわからなければ外部の人も来づらいので、情報共有が必要なのでは？

田島：探究の時間と放課後にあけておきたい。

Aさん：講師と生徒の打ち合わせができるように、前もって時間を決めておくのが良いのでは。授業時間は時間が分からないと探究サポーターが困るので、事前のやり取りが必要。

Gさん：空間づくりでテーマにしているのは、境目をなくすこと。中と外の空間が分かれているので、窓を透明にして中が見えると入りやすくなる。テラスをつくって、中と外から入れる中間の場所をつくる。ガラスを透明にするのが一つ。畳やカーペットでごろんとしている子供たちの様子を見かけるので、そういう空間も居心地がよさそう。大人と子供が活動する場所を分けないように設定している。いつの間にかまじりあっていることもあるので、パーティションがあって個室を作れるのは良いが、はっきり分けることはしないほうがよい。移動式のホワイトボードは、やりたいことを言語化して伝えられて、共有もできる。落書きしやすいホワイトボードがあると、結構高校生は活用します。

田島：窓を透明にするのはわかります。コンビニも、中が見えると入りやすい。ホワイトボードを分けようと思ったが、移動しておけば、空間を分けずに使えるかもしれない。

Hさん：中にいる生徒が何に興味があって、何を探究しているのかがわからないので、ホワイトボードに書いてあったら、自分が助言できる分野がわかって、入りやすい。入り口付近に伝言板のようなホワイトボードがあると入りやすい。

Gさん：新しい大人が来るときは、呼ばれたいニックネームで名札を付けています。

Dさん：物が多すぎると気持ちがいっぱいになるから、空間を広く使ってほしい。

Aさん：図書委員みたいに、子供たち自身が。入りやすい空間づくりを考えても良いのかもしれない。

Gさん：具体的にどこまでリノベーションして良いんですか？うちは子供たちに色を塗らせたり、壊れたら修理させたりしている。自分たちで作った空間。レイアウトも自分たちで動かす自由さを設定している。できるなら、高校生にアイデアを考えてもらってつくってもらうのが良いのでは。

Dさん：自分たちで作った空間は親しみを感じやすい。

Gさん：先生たちも大変になるから、みんなで協力する感じで。

田島：いろいろなところからの意見をまとめて、先ほどの意見も踏まえて提案して、予算の相談もしたいと思います。

Aさん：立って活動する場所があったら、スペースの活用もでき、最新のところで話ができている感じがするのでは。

Bさん：備品も考えていければ。

Cさん：探究ルームに行く場合は、子供の課題に答える場なのか、絵本を作るので集まってください、のような形なのか。講師のような立場なのか、一緒に活動しようという立場なのか？

田島：その点についても、探究ルームと連動して、セキュリティと関連させながら検討していく予定です。誰でもどうぞ、とはできないと思うので。

③探究サポーターの活用について（規約の確認）

徳永：登録ありがとうございます。サポーターの方々のための規約がしっかりしていないと、サポートができないということで、規約を試行している。今後変化する可能性もあるが、11条について、協議会を経ないと変更できない、となっているところが縛りが強すぎたかもしれないので、この点を次の議題にさせていただければ。どのように変更するか、も11月の会議の時に話し合っ、よりよい規約ができれば。

田島：前回の要望に応じて、探求サポーターの一覧の資料をつけています。

現在24人。いろんな分野の人に登録いただいている。キッカケセッションに参加してもらい、2年生の課題分析で講師をお願いした。2年生の生徒が一覧を見ながら数グループお声掛けをさせてもらうなどの活用をさせていただいた。手探り状態なので、もっとよい活用方法があると思うので、検討していきたい。大体30名程度というところで多くの人に登録いただいています。今後もよろしくお願ひしたい。

Aさん：大枠の規約なので、変更の必要は出てこないかもしれないが、11条については今後検討していきたいでしょう。探究サポーターへの情報発信については、方法を検討していく必要がありますね。オープンチャットなども含めて。

田島：探求サポーターの説明会を6月に行い、質問を受けました。一方的に学校から依頼をするだけでなく、相互的にできること、サポーター同士でできること、一覧をHP公開することなど、多くの意見をもらいました。少しの自己紹介的なものを乗せるなど、HPに掲載予定です。こうしたい、ああしたい、という意見が出たときに、11条に抵触することもあると考えられるので、融通が利くように考えていければ。

Aさん：次回の議題として考えていきましょう

Gさん：6月の説明会に出席した気づきです。他にどんな人がいるのか、自分たちが学校を応援しているのを地域に知ってほしい、連絡は生徒と直接したい（メールなど）、という意見がありました。

11条があると、スピード感が落ちるので、個人的には削除したい。この場で削除できれば、スピード感が保てるので、ここで議論してほしいです。

Aさん：11条について、単純に削除するのか、もしくは学校の判断や部会の判断で、というような柔軟な感じにするのか。

規約は規約としてあっていいと思うので、外部連絡方法については別に規約を作ればよいのでは。ご意見お願いします。

Gさん：それで大丈夫だと思う。学校運営協議会は規約を管理する組織なんですか？

Aさん：誰に規約を考えてもらうか、協議会で検討して、学校長が決める。場面ごとのルールは、最低限協議会で決めて、担当者を決めて、一任する。変更については担当が権限を持っていいのでは。協議会だけで承認できるものではないので、協議会側での意見を述べる人を一任して、学校と協議する形となるのでは。

平山校長：生徒の管理の件もあるので、学校運営協議会で管理する。

Gさん：規約を3つ作っている。高校生用、メンバー用、外部の人への確認書。規約については役員会で扱っている。探究ルームの規約を協議会ではかるのか。

Dさん：規約は大きなことがあった時に効果を発するもの。大まかにこれで問題ないと思う。実働する人に一任してできるようにしておけばよいのでは。

Gさん：探究とは何なのか、という規約があり、サポーターに任せる、と言うのが流れなのでは。しかし、これはサポーターの規約であり、探究の規約があって、協議会ではかるもの。外部連携については担当者に任せてよいのでは。

Iさん：細則をつければよいのでは。いろいろな話を話し合おうとすると機会を逃すこともあるので、採決が必要なことについて、協議会に挙げていくので良いのでは？

Aさん：規約を守らなかった時には学校が排除できる。学校と探究サポーターの間にある規約。学校に対する制約で、何かあれば処分をする、という位置づけ。

田島：協議会の中の地域協働部会：探究活動をサポートする部会、ここから探究サポーターのアイデアが出た。プラットフォームを作ろうという募集をかけた。規約は学校が作るのはおかしいと思うが、協議会が規約を管理しているという形。

Iさん：私たちがサポーターを募集しました。サポーターは規約を守ってくださいね。連絡方法は、学校で一つメールを準備してあげましょう等の細則を増やせばよいのでは。

Aさん：地域協働部会が探究サポーターを募集します、ということ。

徳永：規約を変えなくてもやりたいことはできるだろうから、学校の方で準備をして運用で進めていただく。根本的なことは会議や部会内で話していただく。運用時に問題があれば、議論をお願いしたい。

(5) その他

- ・今後の会議の日程、連絡方法等の確認

今回は11月5日、ぜひよろしく願いいたします。おくんち関係で変更の場合は早めに連絡をさせていただきます。変更の場合には2か月前くらいには連絡をさせていただきます。